

第1学年 日本語学級「おもしろい うみの かくれんぼをしよう」(オンライン授業)

トピックのねらい	○うみの生き物のかくれんぼの様子を理解し、発表することができる。
日本語の目標	○「○○が～～してかくれます。」というモデル文を活用して海の生き物のかくれんぼについて話すことができる。
関連	教科・単元 国語科「うみのかくれんぼ」A 生活科「いきものとなかよし」B
	くらし・行事 夏休みの絵日記 C
主な学習活動	①「うみのかくれんぼ」の全体のなかみをつかむ。 ② 一番びっくりした生き物のかくれんぼを発表する。


教材・教具：教科書、写真、ロイロノート

授業展開




時間	学習活動	指導のポイント 支援「○日本語 ◇教科 *バイカルチュラル視点」	関連
1	1 うみで かくれんぼしているいきものをみつけた経験を出し合う。	*日本の海やフィリピンの海でみつけた生き物を出し合う。	BC
	うみのいきものが どこにかくれていたか かくれんぼの様子をしよう。		
	2 デジタル教科書の動画を見て、何がどこにかくれていたかを発表し合う。	◇教科書を読んで、出てきた3つのいきものの隠れた場所を見つける。 はまぐり→すなのなか たこ→うみのそこ もくずしよい→いわのちかく ○場所を表す言葉「なか」「そこ」「ちかく」を具体的にできるように写真で説明する。	A
	3 一番おもしろかったかくれんぼと、そのわけを発表する。	◇既習のモデル文「どうしてかというのと～」を使ってはなす。 「わたしは、○○のかくれんぼがいちばんおもしろかったです。」 「どうしてかというのと ～～だからです。」	AB
4 学習をふりかえる。	◇ふりかえりカードに記入するよう指示し、自己評価できるようにする。等		
2	1 デジタル教科書の動画を見て、既習の「なにが」「どこに」にかくれていたか、たしかめる。	◇かい→はまぐり、カニの仲間→もくずしよいというただしい名前を確認する。 ○「○○が△△にかくれていました。」という言い方を確認し、発表に繋げる。	A
	うみのいきものが どのようにかくれているかを 発表しよう。		
	2 どのようにかくれているのかを見つける。	◇教科書の表現の「○○が～～してかくれます。」という言い方を準備し、自信をもって話せるように促す。	A
	3 自分の一番面白いと思った生き物について、かくれる様子を発表する。	○モデル文を提示する。 「わたしは、○○がおもしろかったです。」 「○○は～～してかくれます。」	AB
4 学習を振り返る。	◇ふりかえりカードに記入するよう指示し、自己評価できるようにする。		

うみのかくれんぼ

うみでは どんないきものが かくれんぼを  
していましたか。



なまえを おぼえているかな。

もくずしよい

たこ

はまぐり

なにか どこに かくれ  
ていたかな。

はまぐり




たこ

もくずしよい

うみの そこ



すなの なか

いわの ちかく

たこ は

す。にかくれていま

それぞれのカードは、子どもの発言で動かしたり、初めは  
答えが隠れていて、子どもの発言で答えのカードが見えたり  
するようになっています。

令和3年度 第1学年 日本語学級「おもしろいうみの かくれんぼをしよう」ふりかえり

児童の様子	≪日本語学級での様子≫ ○デジタル教科書の動画を見せたことで、生き物のかくれんぼに興味を持って学習に入ることができた。 ○正解のカードをかくし、クイズ形式にしたことで集中して考えることができた。 ○1時間目は「どこに」(かくれる場所)2時間目は「どのように」(かくれ方)と、分けて考えたことで教科書の内容をつかみやすかった。	
	≪在籍学級での様子≫ ○今まで学習した「どうしてか」というと」のような言い方を進んで使えるようになってきた。 ○モデル文をヒントに自分で文章を考えようとする様子が見られた。 ○在籍学級の授業でも積極的に発言しようとするようになった児童がいた。	
学習活動案・日本語支援について	1時間目	<b>成果</b> ○動画→クイズ→まずは「かくれる場所」とアプローチしたことで、説明文の理解が進んだ。
		<b>課題</b> △「かくれんぼ」という言葉を知らない児童がいて、オンラインではあるが一緒にやってみることで、「これなら知ってる。」と気づく児童がいた。知っているだろうと思っても知らない言葉があるので、丁寧に取り扱う必要があると感じた。
	2時間目	<b>成果</b> ○モデル文を提示し、普段からその文型を使わせるようにすることで、自信をもって発言できる児童が増えた。 ○他の生き物についても、自分なりに文をつくってみようとする姿が見られた。
		<b>課題</b> △日本語の実態によって、自分で教科書を読みながらというよりは、耳で聞いて話したり課題をする児童が多い。 →音読の取組に対する保護者への協力をお願いする。 →画面共有に頼らせないで、教科書を目で追いながら音読をするよう常に声をかける。